

## 【学生ワークショップのねらい】

前橋市内の大学に通う学生に対し、トレジャーハンティング形式のワークショップを行った。前回のワークショップで導き出され、現在検討中の理念や方向性及び全体方針（方向性、エリア分けなど）を裏付ける補強調査のために、学生が中心市街地においてトレジャーハンティングを行い、魅力に感じたことや改善が必要なこと等の率直な意見を聞き取り、活用する。



店主にまちのことについてインタビュー



商店街に置かれたテーブルでどら焼片手に作戦会議



まちで感じたことをアウトプット



何を見て何を感じたか発表し、皆で共有



エリアによって様々な魅力を発見

## 【学生ワークショップの参加者】

参加者は、前橋市内の大学に通う学生とする。参加者の周知協力については、前回の第1回ワークショップに参加していただいた教員を含め、2大学5教員に学生の参加協力を依頼した。平日の昼の開催にもかかわらず、前橋工科大学17名、前橋工科大学院5名、共愛学園前橋国際大学8名の計30名が参加し、分野の異なる学生を組み合わせて4~5人の計7班を作り、ワークショップを開催した。



まちなかにアートやデザインされたものが点在している



開かれた遊園地のなばあくは子供達の遊園地デビューの場



波板の囲いにアートが！



イベントが無くてもデザインで魅力が保たれている



レトロで賑やかなショーケース

## 【学生ワークショップの開催概要】

日時 平成30年12月13日(木) 9:00~16:30  
場所 中央公民館5階506学習室(前橋プラザ元気21内)

### 実施概要

- 9:00~9:30 開会、アーバンデザインの説明
- 9:30~9:50 アイスブレイク
- 9:50~10:00 トレジャーハンティングの説明
- 10:00~14:00 トレジャーハンティング
- 14:00~15:00 各班によるまとめ作業
- 15:00~16:30 各班による発表、閉会



広瀬川沿いは癒しがあり、住む・働くに向いている



歩行者が少ない一方で車は渋滞していた(x)



自然栽培野菜が買えるまちのドーナツ屋



個性的なお店が集まる場所には人も集まる



サラリーマンにつられて入った焼そば店は絶品！

## 【トレジャーハンティングについて】

- トレジャーハンティングのルール
- 中心市街地を歩きながら、各班指定されたテーマに沿った「魅力を感じるもの」や「改善が必要と感じるもの」等どんなものでも構わないので発見し、写真を撮る。
- テーマ1 訪れたい、居心地よい、賑わっているまち
- テーマ2 住みたい、働きたいまち
- テーマ3 前橋のまちの個性、魅力、資源

また、以下のミッションを遂行する。

- ミッション1 3つの指定したチェックポイントを通過する
- ミッション2 まちの人にテーマについてインタビューをする
- ミッション3 まちなかで食事をする

魅力を探しながら写真を撮り、わざと離れた位置に点をさせたチェックポイントを回りながら中心市街地を広範囲歩く。そして、自らコミュニケーションをとり、まちの人々の思いを聞き取る。中心市街地で食事をするということも学生にとっては大きな経験。都会のお店やロードサイドのレストランとは違う何かを感じるはず。そんなことを体験しながら約4時間のトレジャーハンティングを行った。

### ■まとめ作業

A1サイズの中心市街地の白図に以下の項目を記録

- ・トレジャーハンティングで歩いた全経路
- ・ミッション1で通過したチェックポイントの位置
- ・ミッション2でインタビューした相手とその場所
- ・ミッション3食事をした場所と店名
- ・「魅力を感じるもの」や「改善が必要と感じるもの」等の写真を撮った場所とその説明

### ■発表

編集したA1の白図を貼り出し、写真をプロジェクターに映しながらテーマに沿って自分たちの感じたことを5分間で発表し、その後全体で質疑応答や意見交換を行った。



ディスプレイ一つでまちの雰囲気明るくなる



知らない所でも行ってみたい素敵な場所だった



いつも気づかないだけで探してみると実は緑が点在している



また新しく平面駐車場が作られていた(x)



広瀬川沿いの開放的な空間で飲食したい



けやき並木通りに対し人の興味が薄い(x)



駅としての魅力が乏しい前橋駅前(x)



アーケード街ならではのアウトホームなコミュニティがあった



活用しきれっていない空き地(x)



若者向けのおしゃれなカフェが意外と多い



衣食住全てが揃い日常をつくる店

## 【発表や質疑応答での意見】

- ・資源や魅力はあるのだが、その情報がうまく発信されていないように思う。また、今の魅力を損なわれないように、出来るだけ現状を大切にしてもらいたい。
- ・500mを超えるとは歩くことをためらう。まちも500m単位でエリアの性格を変え、緑や駐車場の連携整備等をしていくことで徒歩利用者が増えるのではないかと考えた。
- ・ポストンのエメラルドネックレスのように森や公園の繋がりができると前橋らしいまちになるのではないか。森の中でパソコン作業をし、働きながらも癒される場があると魅力的だ。
- ・最初歩くのが嫌だったけれど、歩いてみると様々な発見があり楽しかった。
- ・新しいものでなく緑を増やし、住んでいる人や従業者側の日常のための整備をしていくべき。
- ・日本にはもともと広場が無く、寺社の境内がその代わりだった。今後は境内を活用したらどうか。

## 【ワークショップ後のアンケートでの意見】

- ・中心市街地には駐車場が多く存在するが、それでは地域活性化には繋がらないと思った。しかし、群馬は車社会なので車以外の交通手段や駐車場の仕組みを考え直す必要がある。
- ・ナショナルチェーン店により発展するのではなく、将来的に今の長所である地域経営で発展するまちになっていけば、前橋の色が濃く出て、魅力を発信できると思う。
- ・根付いた文化や人々の暮らしの様子を考慮し、場所性、地域特性を意識した開発が必要。
- ・10年・20年後もまちなかの歴史や魂を受け継いでいって欲しいと感じた。前橋に住んでいたり関わりがあった人々にとってふるさとを感じる空間であって欲しい。
- ・古い建物が残っているからこそ前橋らしい街並みがあり、それが魅力的だと思った。ただ新しいものを増やすだけでなく、今の前橋らしさを活かしていくことが必要。